

スポーツ庁長官記者懇

開幕直前、ミラノ・コルティナ冬季オリ・パラへの期待

スポーツ庁は1月27日、スポーツ庁長官による記者との懇談を開催し、河合純一長官が、2月6～22日に開催されるミラノ・コルティナ冬季オリンピックおよび3月6～15日に開催される冬季パラリンピックにおける日本代表選手への期待を語った。

同大会では、史上初の2都市共催に加え、山岳スキーが新競技として採用され、女子スキージャンプでラージヒルが新種目として実施されるなど、新たな試みがなされている。

河合長官は「先日、日本代表選手団・チームジャパンの結団式に出席させていただいた。改めて選手たちがこれまで取り組んできた思いや、そして覚悟をお聞きすることもできた。オリンピック、パラリンピックがこれから続いていくが、こういった大会においてこれまで取り組んできた選手が最高のパフォーマンスを発揮できるように、全力で応援するとともに、サポートをしていきたい」と話すとともに、「そのことが間違いなく、国民にスポーツの価値や魅力を伝えることにもつながっていくと確信している」と語った。

また今大会について、日本オリンピック委

員会（JOC）らがSNSにおける誹謗中傷対策として、現地と日本にモニタリングのための拠点を置くことについて「競技に集中できるように、大会本番前後を含めて、アスリートの心の支えになる仕組み作りが今我々に求められている。引き続き、JOC、JPC、そして競技団体等とも連携をしながら、アスリートたちのウェルビーイングにつながるサポートを続けていきたい」と話した。



河合スポーツ庁長官